

追悼

故 安原 正之 会員 (2期)

2021年2月12日逝去・98歳

1982年度 東京弁護士会会長



安原正之先生を偲んで

会員 石渡 光一 (19期)

1 我が人生最大の師である安原正之先生が2月12日逝去された。弁理士の御令息から連絡を頂いた。急なことで驚愕しつつ深い悲しみに襲われた。

先生は、大正11年5月生れの98才で、あと3ヶ月で白寿という大変長寿であられた。ずっとお元気であり、1月26日に定期検査のために病院へ行かれたところ肺炎との診断で、そのまま入院されたとのことであり、わずか2週間余で帰らぬ人となられた。それまで弁護士業も続けておられ、正に生涯現役であられた。

2 先生は、太平洋戦争末期に応召され、軍隊の経験がおありである(安原正之「ひと筆」自由と正義2018年8月号参照)。戦後最初の高等文官試験司法科試験に合格され、研修所2期である。

昭和25年4月弁護士登録、東弁に入会、厳父が弁理士をしておられた関係で弁理士の登録もされた。以来、安原法律特許事務所を主宰してこられた。その間、昭和44年度東弁副会長、昭和57年度会長、翌58年度日弁連副会長を務められた。拘禁2法案反対運動の時である。他にも法制審委員、工業所有権審委員、弁理士会副会長も務められている。

3 私は、昭和42年4月弁護士登録、東弁入会の19期であるが、中央大学の研究室の先輩である先生の下で勤務弁理士として3年間お世話になった。先生は大変温厚な人柄であり紳士であって、先生から叱られた記憶はない。しかし、仕事には超が付く真面目さ、真剣さで取組まれた。主として特許権等の侵害事件を取扱っておられ、屢々東京地裁29部(特許部)に通われたが、事件の準備は期日の直前まで何度も何度も推敲を重ねられた。また地裁の特許専門部は開設されて日が浅く、

裁判官を中心として、弁護士も参加して侵害事件の裁判実務を中心とした研究会が行われており、先生も、毎度欠かさず参加され、熱心に研鑽を積んでおられた。

4 しかし、先生は仕事ばかりの堅物ではなく、趣味も多彩であり、仕事や会務での付き合いでは想像が出来ない粋人でもあった。

先生は日本倶楽部書道部の正会員であった。日中法律家交流協会にも加入しておられ、中国での交流会において行われた書の競演では、日本側の代表として健筆を振られたとのことである。

また、日本舞踊も身につけられておられた。所属していた東京法曹会の旅行総会の宴会では、先輩の安来節に合わせてどじょうすくいを踊られたこともある。まめ絞りの手拭で頬拭りをし、尻端折りの格好で踊られたもので、相当の年季が入っていた。

釣りやゴルフもされ、テニスもされた。顧客にテニスラケットのメーカーがあった関係か、テニスは中年になって始められた。熱心に練習場へ通われたそうで、裁判官や弁護士で作っている東京法曹テニスにも参加されていた。東京法曹テニスは毎年東宮御所のコートで皇室との交流テニスが行われ、今の上皇陛下・上皇后陛下も参加されていた。先生は陛下との対戦はなかったものの、上皇后陛下とは親しくお話しをされることもあったとのことである。

5 この様に、先生は亡くなるまで仕事も遊びも常に真面目に且つ全力を尽くしてやって来られた。やることはやった、確りやったと人生に満足をされて旅立たれたと思う。心からご冥福をお祈り申し上げます。